

カナダ 農産物に対する米国の関税

[FreshPlaza 2025年2月24日](#)

「最悪に備え、最善を期待する」

米国がカナダとメキシコから輸入する製品に課す可能性のある関税について、人々は概ね否定的な反応を示した。3月12日以降、米国に輸入されるすべての鉄鋼とアルミニウムに25%の輸入税が適用される。現時点では、カナダとメキシコからの輸入品に対する関税の実施が、国境警備、違法薬物及び移民に関する措置と引き換えに3月4日まで一時停止されているため、青果物への影響は不明である。

ケベック州モントリオール市に拠点を置くクルシェーヌ・ラローズ社(青果物卸売)のギイ・ミレット氏は、「我々は中立を保ち、積極的に行動しようとしている。2週間前にわかったことの1つは、トランプ氏が我々がまだ遊び方を知らない新しいゲームを見せてくれたということである。最終決定が保留された今、ゲームをよりよく理解するための追加の時間を得たので、3月4日までにより良い準備が整うだろう」と話す。(以下「」は同氏の話)

消費者にとってのチャンス

「結局のところ、皆が立場を決めようとしているが、我々は卸売業者として(生産者、輸入業者と消費者の)中間におり、より中立的な立場にある。消費者がどのように反応したいのか決めてもらう必要があるが、信じ難いことに、関税は消費者にとってもチャンスを生む可能性がある。」タマネギのような輸出品は、今は簡単に米国との国境を越えることができる。関税が輸出にマイナスの影響を与え、より多くの国内産品をカナダ人が利用できるようになれば価格が下がる可能性がある。

関税が課せられた場合、カナダの生産者全員が同じように影響を受けるわけではない。「ケベック州では、温室栽培の農産物は主に国内市場にとどまるが、オンタリオ州の温室栽培生産者は非常に大規模な輸出業者である。」全体的に見て、関税の影響は甚大であるが、報復関税は米国からカナダに輸出されるすべての農産物に課税されるため、これも大きな影響を及ぼす。

ボイコット

カナダの消費者が対応できる1つの方法は、米国の農産物をボイコットすることである。「経験則に照らして、消費者の3分の1は米国の農産物を断固としてボイコットし、3分の1はそうしたいと思いつつ結局米国産の果実や野菜を購入し続ける。3分の1は、単にその製品が必要だから気にしない。」特に外食産業は、一定の農産物を顧客に提供し続ける必要があり、ボイコットを実施する余裕はない。「米国産農産物の購入を当面拒否する購入者は、その製品を常に代替できる訳ではないことを認識することが重要である。弊社は国際的な企業であり、世界中の様々な地域や国から調達しているが、一夜にして調達先を切り替えることはできない。」他の地域や国から調達できる時期は、大自然によって決められている。今後、調達戦略は関税によって部分的に影響される可能性があるが、産地を切り替えるには時間が必要だ。消費者がカリフォルニア州産の柑橘類からスペイン産の柑橘類に切り替えたいと想像してみよう。「我々が海上輸送に依存していることもあり、変更には約10~14日かかる。」

関税には値札(対象物の価格)が関係するが、他の様々な調達先地域の値札はさらに高い可能性がある。「供給過剰のズッキーニ市場に対する25%の関税は、米国から別の生産国に切り替えるよりもはるかに安い可能性が高い。単に関税を払って持ち込む方が良いかも知れない。」

実施

不確実性にもかかわらず、カナダ政府は、カナダに輸入される農産物とそれに伴う税金を管理するシステムの導入に力を入れている。カナダ国境管理庁(CBSA)は、同庁の評価・歳入管理(CARM)システムを使用して、カナダに輸入される商品に対する関税と税金の評価と徴収を担当する。ミレット氏は、カナダ政府が関税を査定し徴収するシステムを導入できると確信している一方で、そのようなシステムが農産物の品質の変化を考慮できるかどうかを疑問に思っている。カナダの買い手と米国の売り手が、農産物を1箱当たり30ドルで販売することに合意したとする。製品には25%の関税が課せられ、これは7.50ドルの税金に相当する。

品質に問題があり製品が品質仕様を満たさなくなった場合に、最終的に販売者の受取額を15ドルとすることで決着したとする。「この場合、関税はどのように計算されるだろうか。関税は実現しなかった価値に基づいて計算されたことになる。弊社では、週に500件以上の通関を行っており、そのうち150台のトラックが米国から来て、さらにそのうち約75台が関税の対象となる可能性がある。後で価値が下がる製品に関税を支払うことは持続可能ではないため、価格の変更に対処する必要がある。」これは青果物業界の特徴である。

「最悪の事態に備える一方で、3月4日に何も起こらないことを願おう。農産物業界の動向は関税がなければはるかに簡単になるが、関税がかかって最も損をするのは消費者だろう。」

執筆者： マリーケ・ヘムズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)